

Ⅲ. 2027年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

救急災害医療学学位プログラム 博士後期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】

出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願する事がないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）	研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）
-----------------------	-------------------------

救急災害医療学学位プログラム

（専攻・50音順）

教員名	研究指導領域
★ 准教授 阿藤 聡 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：トレーニング科学、運動生理学、骨格筋生理学 研究内容のキーワード：レジスタンストレーニング、筋肥大、タンパク質代謝、多核体 運動（筋収縮）による骨格筋の量・機能の可塑性機構、特にレジスタンストレーニング（いわゆる筋トレ）による骨格筋量の改善メカニズムについて分子・細胞レベルで理解することを目指して、実験動物や培養細胞など生物学的実験手法と研究グループが確立した実験動物のレジスタンストレーニングモデルを用いて研究を行っています。また、研究成果をアスリートの競技力向上へ活用することや、加齢に伴う骨格筋量・機能低下（サルコペニア）の改善方法へ応用するための研究についても展開しています。博士課程では研究室で取り扱っているテーマの中で、自身で研究プロジェクトを立案・遂行し、その成果を査読付き学術雑誌に原著論文として公表するプロセスを経験することで、学位取得後にアカデミアや産業界など様々な分野で独立した研究者として活躍するための能力獲得を目指します。
	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学 研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質、筋ジストロフィー、代謝、実験動物 損傷、疾患、加齢による運動器機能不全や全身代謝の低下へ対する予防・改善手段（動、栄養介入など）の考案を目的として、実験動物や培養細胞を用いて分子レベルで発生機序や細胞応答を検証します。また研究によって得られる成果は、スポーツ現場や医療現場へ積極的に応用することを目指します。
	研究テーマ ・ 運動誘発性筋損傷による神経損傷の発生機序と病態メカニズムの解明 ・ デュシェンヌ型筋ジストロフィーモデルラットを用いた運動器へ対する効果的な介入方法の検討 ・ 加齢による運動器機能低下へ対する効果的な介入方法の検討 ・ 悪液質による運動器機能低下へ対する効果的な介入方法の検討
★★ 教授 小林 正利 博士（医学）	研究分野：顕微解剖学、健康教育学 研究内容のキーワード：組織化学 エネルギー代謝、健康教育学 動物実験モデルを作製し、解剖学的手法、組織化学的手法を用いて形態学的に健康維持増進、救急医療に係わる因子について探索し検討します。 主な研究内容は ① 骨格筋再生に関わる細胞の相互関係についての3次元解析および組織学的検討 ② エネルギー代謝に関わる因子の組織化学的検討 について行います。

教員名	研究指導領域
<p>★★★ 教授 鈴木 健介 博士（医学）</p>	<p>研究分野：救急医学、災害医学、病院前救急救命学、VR、DX、生成系AI、在宅医療</p> <p>研究内容のキーワード：仮想現実、学校における災害時の対応、学校における緊急時の対応、災害医療ロジスティクス、ファーストレスポnder、データベース、熱中症</p> <p>博士課程では、主に以下の過程を重視し、研究者としての自律できる能力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理を学ぶ ・研究計画を実行する ・統計学的な解析を行う ・学術論文を作成する ・国内外の雑誌に投稿する ・国内外で学会発表を行う <p>病院前救急救命学領域では、ILCORなどのガイドラインに基づく救急蘇生法に関する分野から、Clinical Questionを検討し研究指導を行う。また、国際的な救急システムの違いから比較研究を実施する。欧米だけでなくアジアにおける救急システムの研究を実施する。</p> <p>災害医療学領域では、国内外の災害対応や予防の観点から、Clinical Questionを検討し、研究指導を行う。生成系AIを用いた研究方法にも積極的に取り組む。</p> <p>最新の研究テーマに関しては、Researchmapを参照。 https://researchmap.jp/kensuke0920</p>
<p>★★★ 教授 中里 浩一 博士（学術）</p>	<p>研究分野：運動生理学、骨格筋生理学・生化学</p> <p>研究内容のキーワード：骨格筋、運動神経、細胞外マトリックス</p> <p>加齢や慢性炎症、あるいは筋ジストロフィーなどの筋疾患に伴う骨格筋の萎縮や筋力の低下を骨格筋および運動神経、神経筋接合部、細胞内代謝の変化を通じて理解し、物理療法などによってその予防法の開発を目指す研究、ヒトにおける遺伝子多型を動物にて再現しその評価やメカニズムを解明することを目的とした研究などを主に行なっています。細胞、動物を取り扱うことで分子メカニズムの解明を目指した研究に取り組んでいただきます。</p>
<p>★ 教授 中澤 真弓 修士（健康科学） 修士（防災政策）</p>	<p>研究分野：救急医療・救急医療政策・消防・防災</p> <p>研究内容のキーワード：救急救命士・救急医療・消防・防災・女性活躍</p> <p>救急業務の社会問題解決を目指した救急医療政策及び防災政策についての研究を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心停止からの社会復帰率向上を目指した救急医療政策研究 ② 救急車の適時・適切な利用、需要対策についての検討 ③ 予防救急、Pre-ambulanceの検討 ④ 救急隊の効果的な活動方策 ⑤ Pre-hospitalにおける女性活躍推進
<p>★ 准教授 成川 憲司 博士（救急災害医療学）</p>	<p>研究分野：救急医療、心肺蘇生、救急車の需要対策、救急救命士の労務環境、医療過疎地域の対応</p> <p>研究内容のキーワード：救急救命士、ファーストレスポnder、心肺蘇生</p> <p>救急領域における課題や問題点の抽出をデータによって示すとともに、研究結果を実装社会にまで落としこみ社会貢献することを目的とする。</p> <p>主に、以下の領域を想定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①心肺停止からの社会復帰率を向上を目的とした <ul style="list-style-type: none"> －教育的観点 －レスポンス時間の短縮 ②地理的観点からの医療格差 ③医療過疎における急性期医療のあり方 ④救急救命士による地域社会への貢献 <ul style="list-style-type: none"> －病院内で働く救急救命士の意義など ⑤スポーツイベントにおけるファーストレスポnderの配置や対策

教員名	研究指導領域
<p>★★★ 教授 橋本 典生 博士（医学）</p>	<p>研究分野：医学</p> <p>研究内容のキーワード：サルコペニア、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、スポーツ喘息、呼吸機能</p> <p>慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡リスク因子は身体活動性の低下でありサルコペニアが関与している。また、サルコペニアを合併することで呼吸困難感も増悪するため、サルコペニア合併に伴う身体活動性の低下や呼吸機能への影響を詳細に検討することが求められている。臨床研究において患者さんより各種パラメーターを測定することで、身体活動や呼吸機能低下の改善につながるリハビリテーションへと応用して行きたいと考えている。また、スポーツ喘息や熱中症予防に関しても興味を持っている。</p> <p>主な研究内容。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① COPDサルコペニアに対する運動療法の効果 ② 尿中エクソソームを用いたサルコペニアの診断の可能性 ③ 老人施設在住の高齢者の呼吸筋サルコペニアと誤嚥性肺炎の関連 ④ スポーツ喘息と血中のn-3系多価不飽和脂肪酸やn-6系多価不飽和脂肪酸の関連 ⑤ 頸部冷却の熱中症予防の可能性
<p>★ 助教 原田 諭 博士（救急災害医学）</p>	<p>研究分野：救急災害医学、病院前救急医療</p> <p>研究内容のキーワード：救急現場活動、防災活動、教育（消防、救急）、Virtual reality</p> <p>救急・災害現場と教育研究を組み合わせ、より安全・確実な救命・防災活動の実現に貢献できるテーマで研究します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①救急現場活動の実態把握と効率化 → 救急現場における判断・対応過程の分析 ②地域防災活動、災害対応力の強化 → 自治体・住民との連携、防災訓練プログラムの評価、避難行動分析 ③消防・救急教育の効果測定および教材開発 → 職員教育や学生教育におけるカリキュラム評価、VRやシミュレーションを活用した教育法の開発と検証 ④VRを活用した災害医療・救急訓練の教育効果の検証 → 没入型学習の教育効果評価、VRコンテンツ開発とその活用法の検討 <p>これらのテーマを通じて、実践と教育の現場をつなぐ実証的な研究を進めています。特に、VRなどの最新技術を用いることで、従来の教育では困難だった実践的な学びや臨場感のある訓練を可能にし、より高い教育効果を目指しています。</p>
<p>★★★ 教授 増野 智彦 博士（医学）</p>	<p>研究分野：救急医学、外傷学、病院前救急医療システム、心肺蘇生、熱中症、災害医学</p> <p>研究内容のキーワード：ショック、蘇生、病態生理、病院前救急医療、災害対応、救急医療を通じた社会貢献</p> <p>病院前救急医療・救急外傷医療・災害医療の現状を分析し、抱える問題点を抽出するとともに、改善・解決のための方策を検討し、救急救命士の社会貢献、活躍の場の拡大につながる研究を行う。博士課程では研究目的達成に向け、詳細な文献検索、実施可能な研究立案、研究計画の策定・実施、研究結果の分析および評価を行い、研究結果の社会への発表により、より良い救急医療の実践に寄与する。主に以下の領域のテーマにつき研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病院前救急医療に必要な知識・手技の効果的な教育・訓練方法 ②効果的な病院前救急活動、処置拡大 ③ショック、心肺停止時の病態生理および効果的な処置 ④熱中症の病態生理、予防・対処方法の社会啓発 ⑤スポーツ施設、マスコギャザリング会場での効果的な救護 ⑥災害時に効果的活動を行うための教育・準備 ⑦救急救命士の職務・職域の拡大

教員名	研究指導領域
★★ 准教授 山田 真吏奈 博士（医学）	研究分野：医歯薬学、教育工学
	研究内容のキーワード：神経炎症、免疫異常、免疫老化
	災害や救急の現場で発症する重篤な疾患を対象に、免疫の暴走が脳や臓器にどのような影響を及ぼすのか、特に、加齢に伴う変化に焦点を当てています。
	主な研究領域 ①熱中症・敗血症の病態生理 ②免疫異常と神経障害のメカニズム ③加齢と免疫老化 免疫や神経の仕組みに興味がある方、基礎から臨床応用まで幅広く学びたい方を歓迎します。